

3 地域の概況

(1) 地域性

本市は、茨城県の最北部に位置し、東は太平洋に臨んでいる。西には阿武隈高地が福島県いわき市より南下し、市域の3分の2を占めている。東西およそ24 km、南北22 km、その総面積は、186.49 km² となっている。

阿武隈高地の支脈を水源とする、大北川、塩田川、里根川などの各河川が太平洋に注いでいる。本町を流れる里根川は鷹巣山付近に源を発し、小木板谷川を富士ヶ丘岩下で合流し、境川を福田で合わせ太平洋に流れている。これらの地域には、豊かな平坦地がひらけている。

学区は三方、山に囲まれ、地形は里根川流域として、南北に狭く東西に細長い平地と台地である。本校はほぼその中央部に位置している。勿来の山並みを境として福島県に続いているところから、経済上・文化上極めて福島県いわき市との交流の多い地域である。

学区内は大別して富士ヶ丘、八反、関本上、福田、関本中の5地区からなり、農業地域と西部の林業地域及び鉱業地域に分かれていたが、昭和46年11月、常磐炭礦の神の山礦の閉山により百有余年の歴史を閉じ、以後過疎化の現象を呈している。

阿武隈の緑と里根の流れに育まれて、全般的に教育的環境はよく、保護者の教育に対する関心が高く、学校に対して極めて協力的である。

(2) 児童・生徒の実態

児童・生徒は、豊かな風土に育まれて育ち、明るく素直である。また、自然や生命を大切にする優しい心をもち合わせている。

児童・生徒数は少ないが、信頼し合い、協力して充実した楽しい学校生活を送っている。学級活動や生徒会活動・学校行事等への取り組みに自主性・積極性がみられ、学年相互の連携も図られ、あらゆる面活発な活動が展開されている。学習にも熱心に取り組む、一人一人が向上心を持ち、確かな学力の習得に励んでいる。

(3) 学区の概況

